

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

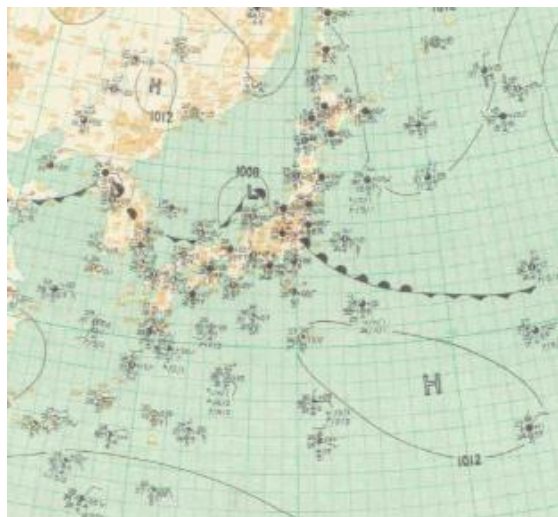
昭和36（1961）年8月20日から21日 中越を中心に大雨

前線活動が活発化 ～中越を中心に小河川が氾濫～

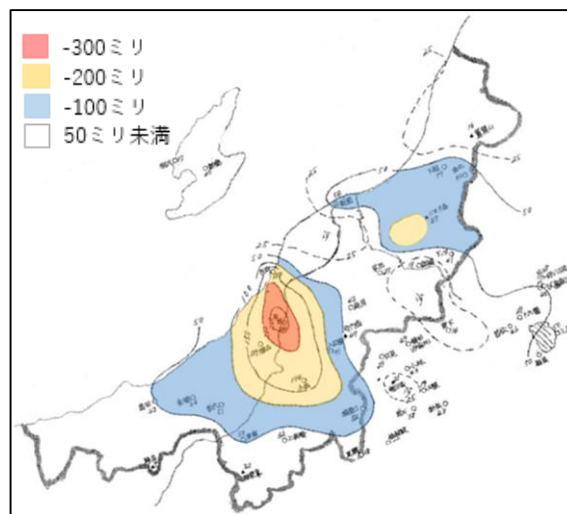
【概要】

昭和36（1961）年8月20日、日本海中部にある低気圧からのびる前線が新潟県をとり日本へのびていた。この低気圧や前線に向かって、太平洋高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が流入し前線活動が活発化した。この影響で中越を中心に記録的な大雨となり長岡市では1時間最大降水量59ミリ、3時間最大降水量132ミリ、12時間最大降水量261ミリを観測した。中越の三島町（現、長岡市）、古志（現、長岡市）、刈羽郡、長岡市、見附市、魚沼郡北部に集中的に降り、この付近の小河川が氾濫した。

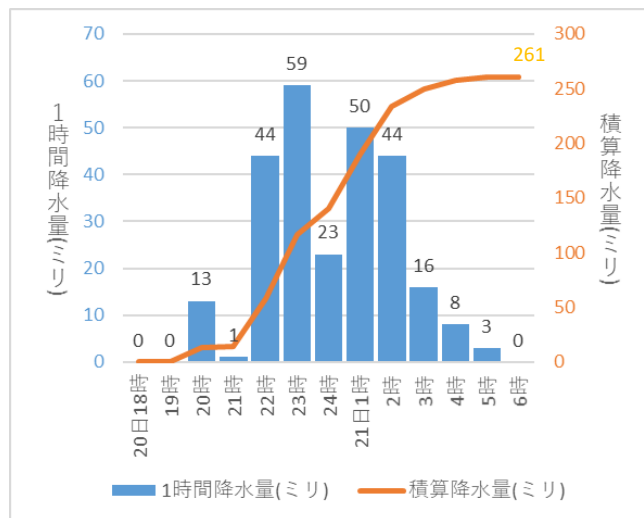
この大雨により、住家全壊34棟、半壊69棟、床上浸水5,004棟、床下浸水10,014棟の被害が発生した（被害状況：新潟県地域防災計画資料編より）。なお長岡市では8月5日にも集中豪雨に見舞われており復旧に至らないうちに再び大雨被害を被った。



地上天気図 昭和36年8月20日21時



昭和36年8月20日9時から21日9時までの総降水量（ミリ）



長岡気象通報所の1時間降水量の推移